

## ~~~~~ 音楽は楽しい治療です ~~~~~

U・S・I・S 提供

音楽は人をひきつける力をもっています。何世紀にもわたって、人々は音楽を、心と体を慰めるのに用いてきました。しかし、今日では、音楽は新しい興味あるやり方で、治療薬として用いられます。米国では病院や、精神病院や特殊学校で、音楽セラピストは目覚ましい成功をしました。

ジェームス・A・ヤング氏は、肢体不自由・精神遅滞児の治療教育に従事している音楽セラピストです。彼は、小児麻痺の子どもに、松葉杖によってもっと容易に歩行し、楽器を奏し、歌い、書き、その他多くの技能を教えました。ヤング氏は、音楽は肢体不自由の子どもが損なわれた筋肉を使用することを刺激し、ある場合には、筋肉を正常に近い状態にまで回復させたと言っています。

音楽はそれ自身治療ではありませんが、自己表現の手段を与え、子どもが持っている音楽能力を発達させるのを助けます。ヤング氏の激励と指導によって、子どもたちはフルートや、オートハープ、オーケストラベル、太鼓その他の楽器を奏することを学びます。このような楽器を扱かうことによって、肢体不自由児は参加と所属の意識をもつようになります。音楽は、子どもたちに、身体的、知的、情緒的という三つの異なったレベルにわたって同時に活気づけます。

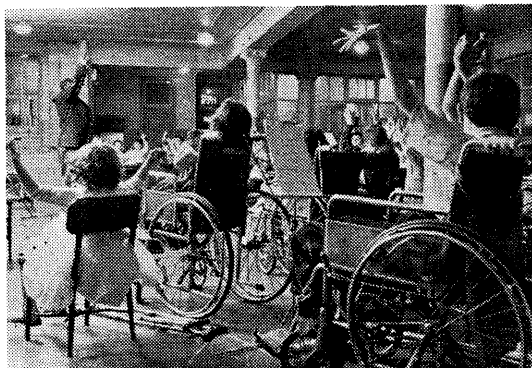
また、音楽は精神遅滞児とコミュニケーションをつけるのに用いられます。メロディとリズムは、彼らの上に流れてゆき、正常児と同様に本能的に筋肉反応を起こします。音楽はこれらの子どもたちが以前には注目をしなかったグループ活動に参加することを刺激します。ヤング氏は、オートハープを使用してみました。それは弦楽器で、AからGまで符合がつけてあります。ヤング氏は子どもたちに、各音符と適当な符合とを結びつけて、演奏することをはげめます。彼らは、こうして音楽と結びつけて形成された語を反復することによって、簡単な語をつくり、こうして綴りを覚えます。数をかぞえることも、音楽の助けをかりて教えられます。

このような特殊教育の技術の他に、ヤング氏は音楽を肢体不自由児の体位の向上に用います。すなわち、よい姿勢の習慣をはげまし、正しい呼吸、よりよく身体と精神とを協応させることをはげめます。このような特殊な利点も重要です。しかし、精神科医や音楽セラピストは、肢体不自由児のための音楽の目的を、より広く解釈します。すなわち、音楽はパーソナリティの発達を助けます。すなわち、音楽は個人の能力と限界を知らせ、人生の適応をすることを助けます。そして社会の有益な一員となる機会を与えます。



自分で楽器を扱うことができるということは、精神遅滞児にとって大きな驚ろきです。音楽セラピスト、チェームス・ヤング氏は、子どもに鉄琴をたのしく叩くように励ましています。子どもが自分でできることに刺激されると、ヤング氏はクラスの前でその子どもの進歩をほめてやります。

ヤング氏はリズムの練習のゲームをして、肢体不自由児が参加することをほげまします。彼の目的は、損傷を受けた手足をできるだけ使用させるようにすることです。



小児まひやその他の疾患をもった子どもたちがヤング氏をみえています。ヤング氏は音楽に合わせて松葉杖で教室を歩きまわり、音楽を、ドット（点）とダッシュと歌というように解釈を与えてやります。「最初に松葉杖で進んで……ドット； それから杖で進んで……ドット； それから体をふってちょっと休んで……ダッシュというように。」

